

ふくしきらり人。



むらた じゅん
村田 純さん

特別養護老人ホーム サン豊浦



今回の「ふくし」きらり人。」は日立市にある、特別養護老人ホーム サン豊浦で意欲的に職務に取り組み、介護福祉士から看護師へとステップアップを果たした村田純さんをご紹介します。

ではなかったことと容易に想像できます。そんな強い意志を貫徹し介護福祉士から看護師へ夢を実現させた村田さんのキャリアストーリーをご紹介します。

介護から看護への転身——

福祉の職場において看護師の存在はごく当たり前の光景であり、特に珍しいことはありません。むしろ密接な関係と言っていいでしょう。しかしながら介護福祉士から看護師へと転身を果たすということは、あまり例のないことと思います。しかも介護の仕事の続けながら、夜学で学びつつ看護師の資格を取得するということは並大抵の努力

祖母への思いがいざなった福祉という職業——

実家をご商売を営んでいたという村田さん。自営業という仕事柄、ご両親は家を空けがちで面倒をみってくれるのは同じ敷地内に家を構える祖母宅で過ごすことが多かったそう。「いわゆるおばあちゃん子で大好きな祖母といつも一緒にいました」と村田さん。その大好きだった祖母を高校時代に亡くし、祖母に何もしてあげられなかったことを

介護福祉士から、看護師へ。 周囲に支えられ果たしたステップアップ。



悔やんでいた村田さんは進路選択の際、人に喜んでもらうことが好きだったこと、そして祖母へおばあちゃん孝行してあげられなかったことから、お年寄りの役に立ちたいと福祉の道に進むことを決意したそうです。

おぼろげな想いが現実となる幸運——

その後、福祉の専門学校を卒業後、現在の職場である特別養護老人ホーム サン豊浦で介護士としてキャリアを積むこととなります。介護の仕事にも慣れ職場でも戦力として不可欠な存在となった入社6年目のある日、職場の面談で将来について話をする機会に恵まれました。その時、以前テレビで見た男性看護師が奮闘するドラマを見て一時看護師にも興味があったことを上司に話したところ「ここで働きながら看護師の資格を目指してみれば。応援するよ」と後押しを頂き一念発起。そこから看護師を目指すこととなったのだそうです。

二足のわらじを履く苦難の中で——

とはいうものの、そう簡単には看護師になれません。昼間は介護福祉士として仕事を続けながら夜に看護学校へ通学。働きながら資格取得の為に勉強するという二足のわらじを履く生活がスタートします。

色々な方の後押しと理解、そしてもちろん自らの努力が結実し、5年間通学の末ようやく看護師の資格取得に至りました。「とにかく大変でした。職場の理解、家族の応援、そして看護学校の仲間の絆があってやり通すことが出来ました」と村田



様々な職種の同僚との連携は欠かせません



看護師として利用者の健康を守ります

さん。ナイスガイの村田さんは看護学校でも兄貴分的存在だったのでは、とお聞きしたところ「いやいや、全くそんなことはありません。上は40代50代、下は18、9歳。自分はちょうど中間世代でした。全くの未経験の方もおられましたし、中には福祉の職場から看護師を目指す方もおられました。ただ私のような特養から看護師を目指す方はほとんどいなかったかな」と当時を振り返られました。

看護師として日々勉強、そして成長——

そして現在、村田さんは6人いる看護師のひとりとして日々、介護の職場で奮闘されています。日々どんな仕事に従事されているのかをお聞きしたところ、「もちろん看護師にしか出来ない医療行為が主ですが、介護のお手伝いすることも珍しくありません。今後も初志貫徹し、介護の現場で看護の仕事を全うしていくつもりです。看護師になってようやく3年。まだまだ看護師としては駆け出しです。まずはそこを極めていきたいと思います」と決意を語って頂きました。

多様な介護の職場へ挑戦を——

ケアマネジャーなどへ介護関連の仕事でステップアップするもよし。村田さんのように看護師として介護の現場を支えるのもよし。いろいろな関わり方が介護の世界にもあります。是非、村田さんのケースを参考に介護の職場にチャレンジしてみてはいかがでしょうか。